

平成 20 年度の協働パイロット事業については、募集件数を例年の 2 事業から 4 事業に増やすとともに、1 件当たりの事業額を減らし、審査の方法を公開プロポーザルから面接での選考に変更するなど、例年よりも市民活動団体が提案しやすいものとしたところ、12 件の応募がありました。

社会的課題に関する着眼点や高い専門性を活かした事業内容など内容的にも優れた提案が多く見られ、審査に苦労しました。

審査の結果、より社会性の強い優れた提案として、(特)災害・医療・町づくりの『東海地震と戦う町づくり』(特)海辺を考える しおさい 21 の『清流の都創造に向けた下山田川(興津川支川)浄化事業』、静岡・海辺づくりの会の『自然が蘇る海辺、次代に残そう美しい静岡海岸』、(特)静岡県防犯アドバイザー協会の『安全・安心・住み心地のいい地域づくり』の 4 事業を平成 20 年度の協働パイロット事業として採用することとしました。

(特)災害・医療・町づくりの『東海地震と戦う町づくり』は、医療・災害対応に専門性を持った NPO と、地域の自治会や消防・医師・看護師などが協働して、トリアージを中心に人のいのちを守る訓練をする点を評価しました。静岡発の全国的にも先駆的な取り組みでもあり、協働パイロット事業での実施をきっかけにして、市と連携して市全体に広げていくことを期待します。

(特)海辺を考える しおさい 21 の『清流の都創造に向けた下山田川(興津川支川)浄化事業』は、環境保全の専門性を活かし地域団体と協力して、川の浄化作業と水質検査を行うことは協働事業として意義があると思います。「清流づくり」は長い時間が必要だと思いますが、本年度事業をきっかけにして、今後、企業の積極的な参加を含め、長期的な取り組みにつながることを期待します。

静岡・海辺づくりの会の『自然が蘇る海辺、次代に残そう美しい静岡海岸』は、環境美化活動と自然観察会などの楽しい活動の組み合わせが、地域に愛着を持ち継続していける活動として工夫が感じられます。また、NPO と周辺町内会、行政の連携、協力が見込まれるところも評価できます。費用としてはパンフレットの作成、配布がメインになりますが、単価を下げ部数を増やすとともに、配布先や配布方法を工夫するなど効果的な活用を望みます。

(特)静岡県防犯アドバイザー協会の『安全・安心・住み心地のいい地域づくり』は、青少年の社会意識や道徳観、倫理観の欠如が問題になっている現在、「中学生」をターゲットにした防犯活動は適切な課題認識だと思います。ただ、現在の中学校現場で、サークルとしてここまできっちりしたスケジュールをこなせるゆとりがあるのか、実行性という点で不安もあり、事業の実施にあたっては、学校、市教育委員会、市民生活課と十分に協議していただきたいと考えます。

以下の事業については、残念ながら今回は採用できませんでしたが、今後、企画内容をより工夫し、再度の提案や単独での実施に向けて取り組まれるようお願いしたいと思います。

静岡市地球温暖化対策地域協議会の『廃食油回収・BDF化仕組みのモデル作り事業』は、惜しくも僅差で次点となりましたが、地球温暖化対策として廃食油のBDF（バイオディーゼル燃料：主に植物油から作られる燃料でディーゼルエンジンに使用。）を取り上げた企画は、時宜に適っていると思います。しかし、市民や自治会の理解を得ることと、住民型回収方式の実行性、BDF化を担う企業との協働の条件など、未確定の要素が多いと思われました。

(特)しずおか環境教育研究会の『守ろう！静岡の自然・集おう！里山のにぎわい祭り』は、多様な団体のまとめ役として、里山のにぎわい祭りを年々広げているところは素晴らしいと思いました。しかし、市との協働事業としての意義が不明確だったと思います。

清水映画サークル協議会の『元気な子供たちに送る映画会「かかしの旅」～助け合える友達づくりを！』は、長年の活動で培われた映画を観る目、運営のノウハウを生かした企画・提案であり、社会的課題として「いじめ」を取り上げたところはよかったと思います。しかし、協働事業として行なう必然性が不足しているものと思われました。

清水おやこ劇場の『創造力を伸ばす子育て「積木ワークショップ」』については、「子どもたち、特に年齢が高い子どもたちへの子育て支援が必要」という長年の活動の実績に裏打ちされた企画に込められた思いは、よく伝わってきました。しかし、行政の役割が、場所の提供、情報交換だけでは、協働事業としての必然性に欠けるように思いました。

クロスフィットネス静岡の『ニュースポーツの「ノルディックウォーキング」を紹介、普及する事業』は、ニュースポーツであるノルディックウォーキングの普及への熱意には好感が持てました。しかし、協働事業として実施する必然性についての説得が不足していると思いました。

エコハウスしずおかの『ケチではなくてエコです』は、環境に配慮した暮らしをする人を増やしていくことは、世界的な時代のニーズであり、広める活動の提案は大切です。しかし、活動経緯を映像化して公開するという事業の効果について、有効性が不足しているように感じられました。

「ゴミゼロプラン静岡」市民ネットワークの『ゴミゼロフェスタ in 街中』は、身近なところで「もったいない運動」不用品交換をしようとする社会的課題への取り組みは評価します。しかし、街中での実施については、保管場所の確保や残ったものの整理などの点で実行性に問題があり、事業自体の有効性についても疑問が残りました。

(特)三保の松原・羽衣村の『三保の松原環境まるごと博物館』は、三保の自然・文化・歴史を守りたいというNPOの皆さんの熱意が大変感じられました。しかし、具体的な事業内容や、協働事業の中での市の役割など事業企画そのものが不明確だと思います。事業やスケジュールなど提案内容を整理し、企画書の書き方についての工夫も必要です。